

フクシマからの訴え

自己紹介

佐藤龍彦（69歳）家族構成 妻、母と三人暮らし
三つの顔 脱原発県民会議・社民党・行政区長

10年の節目を迎えて

3. 11 慰霊祭の特徴

特別な感慨もなく、10年前を重い返す1日

課題

- ・震災・原発事故10年
人口減／帰還率と居住率／避難者の継続／生活再建
震災関連死、要支援者／孤独死
廃炉／デブリ取り出し／使用済み核燃料取り出し／汚染水対策／工程表
見直し遅れ／コロナ禍の原発廃炉作業労働者
緊急事態宣言と被ばく受忍
甲状腺多発と甲状腺サポート事業／健康手帳の必要性／医療費無料化切
りス手動向／
除染なし解除・帰還困難地域の方針未定（白地地区）／汚染土の実証実
験と再利用／中間貯蔵施設と県外最終処分未定／
復興のあり方（イノベーションコースト構想・伝承館など）
公務労働者の精神疾患増／損害賠償時効／避難計画
国、東京電力の責任を問う裁判／刑事裁判／賠償請求の時効問題
- ・トリチウム汚染水海洋放出／帰還困難地域の除染方針（白地地区）

脱原発のたたかい

- ・廃炉／被害者の救済／フクシマからの発信／国の責任
トリチウム汚染水海洋放出反対のたたかいから健康手帳交付の実現へ
平和センター、原水禁運動を軸に広範な民主団体、市民団体と連帯
県民大集会と原水禁世界大会福島大会
政府交渉団体と連携、要求解決へ
国際連帯／チェルノブイリ被害者
その他

最後に……

10年は、人間の復興、心の復興の通過点に過ぎない。被害者ひとりひとりに滓となって残る原発事故を忘れることはできない。被害からの再生・

復興は道半ば、廃炉に携わる労働者や、苦渋が続く生活再建（避難者、生産者など）、健康（安全、安心）課題のたたかいは端緒に着いたばかりである

峠三吉の原爆詩集を思い出す ちちをかえせ、ははをかえせ、としよりをかえせ、こどもをかえせ、わたしをかえせ、わたしにつながるにんげんをかえせ。・・・へいわをかえせ

10年はたたかいのスタートに過ぎない。連帯がわたしたちの運動の支えになってきた。実感したたたかいと連帯は同義語、ともに生きつづけ、たたかい続けましょう。